



23区初の完全オンラインシステムを 実現した区民の健康を想う 医療人の"情熱"



USFR'S VOICE

板橋区医師会(東京都板橋区) 東京医科大学病院(東京都新宿区)

東京都板橋区における対策型胃内視鏡検診事業の始まりは2019年11月。その根幹を成すのは、厳正な個人情報管理と効率的な読影を実現する独自のマニュアル「板橋ルール」と、ダブルチェック共有サービス「ASSISTA Medical checkup-ES」。次世代の地域医療を担う5人衆が牽引する23区初の完全オンラインシステムは、区民の健やかな暮らしを支える"検診の輪"を生み出している。

太田昭彦先生太田内科グニック院長

安田 武史 先生 医療法人社団教宥会 安田病院 院長

矢郷 祐三 先生 やごうりニック院長

風見明 先生 鳳見医院院長

小林 匡 先生 医療法人社団正風会 小林病院 院長

検査医師の"働き方改革"なくして 実現しない対策型胃内視鏡検診

一対策型胃内視鏡検診の実施経緯は。

矢郷先生 全国各地で対策型胃内視鏡検診が続々と実施されている流れを受け、2017年5月に内視鏡検診準備委員会 (現 運営委員会の前組織)を設置し実施に向けた検討を始めました。現 運営委員は病院側が医師2名、クリニック側が医師3名とバランスが良く、色んな視点で議論ができました。

安田先生 運営委員同士の考えをまとめるうえで、意見交換 の積み重ねが大事でしたね。顔を合わせて対話するだけでな く、細かなことはメールでやり取りしていきました。

矢郷先生 議論を重ねるなかで課題として挙がったのが、検査医師をはじめとした検診に関わる人々の労務環境の改善です。その解決策候補が、インターネットを介してデータのやり取りができ、自院読影も可能なクラウドシステムでした。

太田先生 日々の臨床に加えて読影業務を兼務することは、 検査医師にとって心理的にも体力的にも大きな負担になります。複数社のオンプレミスサーバーやクラウドサーバーを検討した結果、富士フイルムのASSISTA Medical checkup-ES(以下、AMCES)が効率的な読影業務をサポートし、コスト面においても中長期的な事業に適したシステムだと判断。板橋区医師会の了承を得て、自治体に要望書を提出し、2018年3月にAMCESの導入が正式に決定しました。

板橋区独自の検診ルールのもと、 セキュリティと効率性を両立

——AMCESを運用する際に留意した点は。

矢郷先生 区民の個人情報を取り扱うため、自治体からは厳重なセキュリティ構築の要望がありました。そこで、検診用PCの条件や受診者の姓名を読影画面に表示しないなどの、板橋区独自の対策型胃内視鏡検診マニュアル「板橋ルール」を策定。富士フイルムには、検診施設に周知するための分かりやすいルールの明文化に協力いただくとともに、ルールに則ったシステム画面のカスタマイズに尽力いただきました。

太田先生 読影業務面では、検診データは即日クラウドに登録し、週明けに二次読影医に振り分けることをルール化しました。検査医師は決まった周期で読影業務ができ、受診者も短期間で検診結果が受け取れるメリットがあります。

小林先生 『一次読影医が検診全体の責任をもつ』という点 も、板橋区の特徴です。二次読影医はあくまでセカンドオピニ オンというスタンスは、一次読影医の検診に対する意識の向 上、スキルアップにつながっていると思います。

安田先生 判断が難しい症例の場合は、板橋区の対策型胃内視鏡検診事業のアドバイザーを務める東京医科大学病院内視鏡センター主任教授・河合隆先生に相談できる点は心強い。いわば"三次読影医"を据えた盤石の体制は、対策型胃内視鏡検診に取り組むうえでの大きな安心材料になりました。